会議録

会議の名称		第７回子どもの居場所部会
事　務　局		子ども家庭部子育て支援課
開催日時		令和３年７月１６日（金）１８時００分から２０時５５分まで
開催場所		小金井市役所第二庁舎８階　８０１会議室
出席者	委員	部会長　萬羽　郁子　委員 職務代理　水津　由紀　委員 部会員　北脇　理恵　委員　古源　美紀　委員 鈴木　恭子　委員　鈴木　隆行　委員 村上　洋介　委員
	事務局	子育て支援課長　冨田　絵実 子育て支援係長　古賀　誠 子育て支援係　山下　真優 児童青少年課長　鈴木　剛
傍聴の可否		可
傍聴者数		３人
会議次第		１　開会 ２　子どもの居場所について ３　閉会
発言内容・発言者名（主な発言要旨）		別紙のとおり
提出資料		１　資料１７　子どもの居場所部会の報告について（案） ２　資料１８　子どもの居場所部会の報告（案）に対する各部会員からの意見

第７回子どもの居場所部会　会議録

令和３年７月１６日

○萬羽部会長　　ただいまから、第７回子どもの居場所部会を開催いたします。

本日は、まず谷村委員から欠席の連絡をいただいております。また、鈴木隆行委員が遅刻もしくは欠席ということになっております。そして、鈴木恭子委員が途中までの参加ということで御報告いたします。

では、次第の（２）子どもの居場所についてを行います。前回に引き続き、子どもの居場所について、審議したいと思います。

初めに、事務局から資料を提出いただいておりますので、事務局からの説明をお願いします。

○子育て支援係長　本日は、皆さんのお手元に資料１７、子どもの居場所部会報告書の概要（案）及び資料１８、子どもの居場所部会報告書の概要（案）に対する各部会員からの意見を配付させていただいております。資料１７は、前回の部会で資料１５をベースにして御議論いただいたものを反映したもの、資料１８は、事前に部会員の皆様に資料１７に対していただいた意見のまとめとなっております。詳細は資料を御覧ください。

事務局からの説明は以上です。

○萬羽部会長　　事務局から御説明いただきましたが、今の流れについてよろしいでしょうか。何か御質問とかあればお願いいたします。この流れについてはよろしいでしょうか。

では、資料１７の１と２については、これまでの皆さんの御協力により先週の子ども・子育て会議に部会として報告することができました。ありがとうございました。本日は今期の部会としては最後になります。事務局からの意見照会にもあったとおり、今回の会議の中で議論をまとめたいと思いますので、具体の修正提案をいただいたのが資料１８になっています。これを基にこのとおり修正するべきかどうか、順に検討し、決めていきたいと思います。

資料１８を御覧ください。まず、３の（１）のところについて、特に修正の御意見はありませんでしたので、このままとしたいと思います。

次に、（２）について御確認いただきたいと思います。こちらについていかがでしょうか。御意見をお願いいたします。

○村上委員　　ちょっと私、意見を書かせてもらったんですけど、すみません、ちょっと言葉を間違っているので。間違っているというか後で気がついたので、【溶け込み例】のところで書いている、「資源」以下の括弧のところなんですけど、一番頭のところ、「財政」と書いてあるんですけど、言葉が正しくないのかなと思って、「財源」に変えていただきたい。

○萬羽部会長　　「財政」が「財源」に。ありがとうございます。こちらはいただいた案になるんですが、こちらに修正するか、もしくはほかの意見や何か御提案などございましたら、お願いいたします。

○古源委員　　この施策提言の（２）番なんですけれども、この資料１７の「他機関の助成制度等の情報提供にも努める」というものは、最近いろいろな補助金制度とか、そういったものの情報を提供してくださいというような意味で書かれていたのかなと思って読んでいたんですけれども、村上委員の修正案を見ますと、他自治体で行っているような助成制度を情報として知りたいというような感じで、内容的にちょっと違うのかなと私は思ったんですけれども、その辺りはどうなのかなということを事務局のほうから伺いたいなと思いました。

○萬羽部会長　　ありがとうございます。事務局からお願いします。

○子育て支援課長　そうですね。もともとの趣旨でお入れしていたのは、他機関としていたのは、国や都を始め、各種財団から財政的な補助金であるとか、あとは例えば食料とかの寄附みたいなものとか、各種制度がある場合がありますので、そういうものを市で把握できた場合には共有してほしいという御意見がありましたので、そこを採用するような形にしていたものです。なので、他機関を他自治体にしてしまうと、国や都とかは含みますが、それ以外の団体が含まなくなってしまうのと、よその補助金制度の情報を提供するというよりかは、小金井で活動する方が活用できる可能性のあるものを情報提供するというのがもともとの御希望の趣旨だったかと思います。

○古源委員　　分かりました。

○村上委員　　すっきりしていないんですけど、ここは自治体が主体的にいろいろ支援してほしいという趣旨を入れてほしいということでこの意見を書かせてもらって、この中では、もともとの文面の中では、他機関の助成制度等の情報提供ということなので、今行われているいろいろな支援の施策とかだけを共有するということじゃなくて、まずもってちょっとまだ情報が足りないので、自治体って具体的には他府県とか、また、自治体の制度の

情報をもっと取ってほしいということと、あとは、制度って明文化されたものだけじゃなくて、それがどういう経緯でできたとか、どういった人たちが関わってできたかとか、そういったことも含めて情報を把握して、情報提供してほしいということで、ちょっと広げたほうがいいんじゃないかということで、文章を加えたというのが私の趣旨なんですけど。

○萬羽部会長　もともとの他機関の助成制度の情報提供に努めるというのは、先ほど事務局からの話もあったかと思うんですけど、村上委員の案だと、逆にこっちの元のものが少し薄れてしまうような気もしなくもなくて、なので、情報提供としては、他機関の助成制度等の情報提供というのが主になりながら、その仕組みづくりを模索するというか、何か。

○村上委員　他機関の助成制度って、具体的には例えばどういうことを指すんですか。他機関ってどこを指して、どういう助成制度ですか。

○水津職務代理　例えば活用し切れていませんけれども、信用金庫とか、そういうところが助成制度を出しているとか、いろいろ情報はあるんですけど、それが使い方が分からなかったり、どこにあったというのが分からなかったりとかするものもあるので、そういうことも含めて、広く共有するという意味なので、自治体のことじゃないイメージだったりする、もともとは。民間企業とかが、フード系だと支援があったりとかというのもあるらしいので、その辺の情報が得られれば、より継続的になるのかなと。特にこれからやっぱり自治体だけの支援では、とてもじゃないけど、こういうものは成り立たないので、企業の目線的なものですとか、そういうものを利用するという視点を含めた「他機関」という表現だったので、そう考えるのが、その自治体の運営の方法を知りたいのかというのだと、ここへ書かれる意味合いが多分違ってくるので、それはどっちが重要、ここに置くべきなのかという話になると思うんです。

○村上委員　そうすると、そもそもの話になってしまうんですけど、今のお話を十分理解できるんですけど、幅広く、確かに企業のいろいろな支援とかも求めていくし、そういう流れだと思うんですけど、優先順位とすると、やっぱりその自治体の取組、ここは小金井市の取組を強化するという方向性をつけたいので、優先されるのは自治体のことなのかなというふうに私は理解しているんですけど。

○水津職務代理　小金井市だからこそ、財源がないので、ほかから協働するとか、つくったものを見せて、どこかで支援してもらうというような姿勢をやっぱりつくっていかないと、非常に財源がないままでいろいろなことをやっていくのは限界があって、まして、それをやっ

ているところは少ないと思うんです、そういう形のものを。なので、ほかと違うやり方が市として、町としてやっていけるようになったほうがいいのじゃないかなと私は思っているんですけど。

○村上委員　何か優先順位はもともとやっぱり自治体がある程度動いて、そこに付加的にいろいろな支援してくれる団体を絡めていくというような。だって市自体のアクションを求めないで、いわゆる支援団体みたいなところを先に入れるというのはちょっと違和感があるんですけどね。

○北脇委員　その助成金とかなんですけど、私も興味があって、調べているので少し今日も持っているんですが、市の予算を取ってくるのと、ほかから取ってくると、財源が違うのと、スピードも違うんですね。そうすると、助成金のほうが素早く動けることもありますし、対象範囲も広かったりするので、より私たちのニーズに合ったものを持ってこれるという、むしろそっちのほうがいいこともあるので、そういうことを考えると、他の機関の助成制度を知るというのはとても意味のあることだと思うんですが。

○水津職務代理　恐らく村上委員がおっしゃっているのは、市がもっと積極的に先に動くべきだというお話だと思うんですけど、ここでいうところの居場所の理論の話のときは、市に何かをというよりは、市内、市の中で子どもの居場所をどう捉えるかということをみんなで考えるという器のものなので、一緒に考えながら、こういうところがある、こういうお金が出ないかなみたいなことを相談しながら、じゃ、こういうのはどうですかとかということが共に話し合える場をつくるということが大事じゃないかなというスタンスなので、行政が何かをするためのものではないのではないかというのが最初のスタートのところなんですけど、その辺はどうですか。

○萬羽部会長　ちょっとその辺りが前回からも何度か議論になっている、協働の視点とかというところともつながってくると思うんですけど、私自身も行政ももちろん動くべきだと思いますが、それだけにむしろ頼るという体制を変えていって、ちょっと外とのつながりとかを広げることによって、こういうものを強化していくという考え方が今後は必要なのかなというふうに思うので、どちらかというと、優先順位というと難しいんですけど、優先順位というのは難しいとは思うんですけど、市ももちろん、行政として何かすることを考えつつ、ただ、一方で、こういう民間とか、ほかの機関の助成をもっとうまく絡めて活用できるようにしていくという姿勢は、今後はかなり必要になってくるので、強調するという意味では必要かなというふうに思ったりしています。なので、文言としては、

こちらを書きつつ、もし必要だったら、ちょっと言葉が何かそういう要素を入れつつ、でも、やっぱり他機関の助成制度というところを、ここは今入れたほうがいいのかなというふうに思うんですけど。

○村上委員　だから、何度も言っているんですけど、おっしゃっていることは十分理解しているんですよ。実際に、まあ、そうだろうと。ただ、現実的に考えると、やっぱり市がアクションというものをある程度入れて、民間の、今いろいろ企業の活動、社会貢献だとか、どこでも動いているんでしょうけども、そこって副次的な部分じゃないのかなという。そこは、それがあればありがたいですけど、やっぱり行政の支援をもうちょっと強化しないと現実的には話が進まないんじゃないかなというのが、どうしてもそういう感じを持っているので。いいんですよ。行政だけに期待するとか、そんなことを言っているわけじゃなくて。ただ、もともとの例えば（2）に書かれている文言だけだと、物すごいさらっとしていて、何か助けてくれるところが手を出してくれたらいいね、情報を取りましょうみたいな。それはちょっと弱いんじゃないかな。

○萬羽部会長　恐らく情報を取りましょうという、受け身というか、周りに押し付けているという考え方の情報提供ではなくて、むしろ、市として、こういうところとつなぐことを積極的にやっていきますよという視点で書きたかったつもりだと思うので。なので、おっしゃる意図はとても分かりますし、今のままだと確かにそう取られてしまうとちょっと本意ではないので、何かそこが分かるように、単に情報提供するという意味ではなくて、それらの情報とつなぎながら、新たな仕組みをしていくというか、ちょっと今までとは違う、こういうものも活用するという方法も考えていくんだよという視点、単に情報を流すという意味ではなくて、こういうものを活用しながら、新たな方法を模索するというような表現になると、もしかすると、よりいいのかなとは思います。

○村上委員　すみません。ちょっとこだわって申し訳ない、1人でしゃべって申し訳ないんですけど、正直、今までやってきて、小金井市のほかの自治体のいろいろな取組に関する情報だとか、情報そのものもそうですけど、それをどうやって取ろうとしていくかとか、そういうのが全然見えてきてないので、そこを掘り下げないで、企業の社会貢献活動みたいなところに行ってしまうというのは、やっぱりぼやけちゃうんじゃないかなと思っているんですよ。

○水津職務代理　すみません。多分具体的なところは、ここで溶け込み例のところにある、具体のものを入れれば、もうちょっと違ってくるので、それを入れるという案だと思うんですけれ

ども、括弧のところに。他機関なのか、他自治体なのかというのは、私のイメージでは、他機関にしたら自治体が省かれるということにはならないと思うので、むしろ広がるんじゃないかなというふうに理解するんですけど。他自治体にしてしまうと、自治体情報のみになってしまうので、いわゆる民間財源の活用みたいなところには逆に結びつかなくなるんじゃないかなという気持ちがするんです。村上委員のおっしゃるように、自治体も努力をして、ほかの自治体がどうしているかという情報は当然取ってくるべきだと思うし、その辺は私たち市民が、じゃ、隣はどうなっているんですかとか、こういうものを使っている自治体もあるんですかとか、そういうことをお互いに情報交換し合いながら進めていくのが姿だと思うんですよ。

○村上委員　　言葉のラインはそうです。他機関というほうが幅広いので。

○水津職務代理　姿勢の問題ですよね。自治体の姿勢が見えないということがおっしゃりたいんでしょう。

○村上委員　　そうそう。そこはもうちょっとはっきりさせたほうがいいんじゃないかなという。これは意見です。

○萬羽部会長　　ただ一方で、「市の既存制度の見直しや拡充を含め」のところに市としてのところも入ってきているのかなというふうに思うんですけど、これだと弱いということですか。最初のところで、頭で「市の既存制度の見直しや拡充を含め」と入っているので、ここには市としての具体的に他自治体というのが入っているわけじゃないんですけど、この「見直しや拡充」というところには、この助成などの制度も含まれていたりするのかなというふうに私自身は思っていたんです。これだと異論があるんでしょうか。

○村上委員　　だから、今までよりも具体的にある程度の支援、何かを提供していくというニュアンスを入れてほしいなと思うんですね。

○萬羽部会長　　すみません。また後で戻ってきますので、鈴木恭子委員が途中で抜けられるということもありますので、（3）についても確認したいと思います。（3）のほうも村上委員、鈴木恭子委員、谷村委員から意見をいただいているんですが、鈴木恭子委員、このあたりちょっと御説明いただいてもよろしいですか。

○鈴木恭子委員　現在の文で理解はできるんですけれども、子どもの居場所を運営、創設していく上で、子どものニーズを聞くということは最重要項目かなというふうに感じています。以前の会議でもそういった話が出たんですけど、実際、施策提言もなくて、ニーズを聞く、利用する側の意見を聞いてやっていくということがちょっと見えにくいなという話もあっ

たので、書いてはあるんですけど、強調するために、ほかの文と切り離して、案として書いてみました。それが、私が書いた最初の全文修正の最初の部分なんですけれども、あとの２つの文章に関しては、また、中間支援を求めるものは、まず１つ目が子どものニーズ調査。さきにお伝えしたなと。２つ目としては、支援者も情報交換しながらということで、２つ目の文章。３番目として、市民と行政をつなぐ縦の場面の整備。実際、子どもの居場所を新たにつくるとなったときに、市役所のどこに話を持っていけばいいのか。運営している中でこういった問題が起きた。それはどういうふうに解決したらいいのかというのを、どこの窓口に相談するのかといった整備が整えばいいなと思って、なかなか市役所のほうでそこのラインを整備するというのは難しいと思うんですけれども、中間支援というのが、いまいちよく分かってないですけど、実際に中間支援を担う機関を設立するのか、それとも中間支援というものは市役所がやるんですかというのが分からないんですけど、例えば水津さんがやっていらっしゃる団体が、中間支援を担う中間支援団体として活動されるのであれば、そこの、例えば、子どもの居場所をやっている団体さんが求めて相談します。それを受け取ります。それを例えば水津さんがやっている団体が、こういう話だったらここだな、市役所のここだなという窓口という役割を担うのであれば、それが私個人としてはいいかなと思っているんですけど、そういったことが明記されていないので、実際、まだ決まっていないのかな。なので、そこまで書くことはできないかもしれないんですけど、お互いの運営がうまくスムーズに行くようなケースも中間支援対策としてあればいいなと感じたので、３つに分けて書いたほうが分かりやすいかなと思った次第です。

○萬羽部会長　ありがとうございます。ニーズを把握するというのをもうちょっと具体的にニーズ調査というような形で認識したり、あと中間支援体制というところが、この言葉だけではうまく伝わりにくいところを、もう少し具体的にというか、分かりやすく書くという形の案になっているんですが、こちらについて、御意見、いかがでしょうか。これ以外のところでももちろんいいですが、３の（３）番について。

○水津職務代理　先ほどのお話ですけど、ネットワーク協議会がそういうふうになるかどうかはちょっと置いておいて、この居場所づくりのテーマを考えたときに、市が何かを全部やるとか、窓口を受けるかというと、不可能だと思うので、そうではない体制をつくることが必要だと。そのための中間支援組織が必要ですよということがここに書いてあって、そういうことを、それをちゃんとつくりましょうよというお話が書いてあるので、具体的にじ

や今どこがどうとかということにはならないんだけど、施策の提言として、その体制がないと子どもの居場所がつくっていけない状況にあるから、それを目指すべきだということが書かれているので、ここからそれをどう発展させるのか、どこかの組織が受けるのか、新しいものをつくるのかという話は、ちょっと別のところに来ると思うんだけれども、体制としてこの体制が望ましいよということをうたいたくて、中間支援組織の確立というか、体制を充実することというふうに書いてあるので、そういう受け取り方をしていただきつつ、その中ではニーズを調べたり、調査したり、関わっている人とネットワークをつないだり、新しく何かをしたい人の支援をするとかということが具体的なこととして入れられているということなので、恐らく分けて書いていらっしゃることは、これを分けるとこうなるという表現だと思うので、分けたほうがいいのかどうなのかという。分けることによって、それだけに絞られないことも必要だなと思うので、そこのニュアンスは非常に難しいけれども、おっしゃっていることは多分変わらないと思うんです。

○北脇委員　水津さんと基本的には同じ意見です。村上委員のほうからも中間支援という言葉をネットワーク構築という言葉に置き換えているんですが、中間支援って、やはりあまりなじみのない言葉かもしれないんですけど、いろいろなことを全て包括しているような言葉なので、鈴木恭子委員の気持ちも分かるんですが、あえてそれを書いてしまうと、やはりちょっと狭めてしまう気がするので、行政ではなくて、中間支援組織がどこか、何か分からないんですが、そういう体制をつくることでいろいろなところを包括すると思いますので、ここはこちらの書き方のほうがいいのかなと思います。

○水津職務代理　続きなんですけど、ネットワーク構築だけが中間支援の役割ではないので、あらゆることを含めての中間支援という意味合いなんだと私は思っているので、ネットワークをもちろん構築することも必要ですし、先ほど言っていたような情報整備ですかね。例えば財源の情報とか、助成金の情報とかをそこで集約したりとか、希望があるところと相談するとかという、コネクトするところが中間支援だと思うので、そこの役割はいろいろあるかなというふうに思っているので、ちょっと幅広く取られるような言い方、文言のほうが応用性が逆にあるのかなと私の中では思っているんですけれども。

○村上委員　これは言葉をどう捉えるかというだけの問題なのかなと思います。ちょっと私、中間支援体制という言葉から伝わるというか、ぴんと来ないんですね。ネットワーク構築というのは、逆に言うと、ただ人と人がつながったり、集まったりということじゃなくて、

ネットワーク構築というのも支援的な意味が入っていると私は理解しているんですけど、そこはちょっと言葉の感じ方の違いなので、どっちが正しいか分からないんですけど、ちょっと中間支援体制という言葉はあんまりぴんと来ないですね。正直。これは個人の感想ですけど、皆さんぴんと来るのかなと思いますけど。

○鈴木隆行委員　僕は実はずっと中間支援という言葉が分からなくて、そういうものが確立しているのかと思ってあまり言わなかったんですけれど、ちょっと今遅れて来ちゃったので、最初のほうはどういう議論があったか分からないんですけれども、中間というからには、何かと何かの間ということなんですよね。中間じゃない支援というのが２番ですか。そういうふうに分けているということなんですか。中間、間を支援する。間じゃなかったら、直接支援ということですか。その辺の、僕も実は中間支援というものが漠然とし過ぎていてイメージが湧かないなと思っていたので。もしも中間じゃない支援のほうが実行者に対する直接的な支援で、中間支援というのがそれに該当しないその他の支援だとすると、僕の仕事で使う補助金関係の用語で行くと、直接支援と間接支援という言葉があるんですけれども、そういう意味合いなのかなと思うんですが。多分僕は、村上委員と意見が近くて、中間支援という言葉が何をイメージするのかが分からないまま言葉になっちゃっていることが問題なので、多分ですけど、村上委員がおっしゃっているのは、中間というのを読み取って、人と人との間を支援するという意味でネットワークと書いていただいたのかなというふうに思うんですけれども、それをそうと限定しないで、後方とか、間接的な部分全部を包括的に言いたいんだとしたら、間接支援とか、そういう言葉でもいいのか。

○水津職務代理　私の中では、いわゆるコンシェルジュ機能みたいなものを中間支援と意味づけているので、そこがよろず相談窓口であって、行政とつないだり、人をつないだりという役割をするところをつくっていくことが子どもの居場所づくりには大事だよということが書いていると思っているんですけど、それだと伝わらない。中間支援か直接支援かという、支援の形態の問題ではないんですよ。ここで言っているのは。絵でいうと、図にすると、行政があったり、市民がいたり、子どもたちがいたり、全部市民なんだけど、子どもがいたり、支援する人とかがいて、その間の真ん中のところに中間支援組織があって、その人が、その組織がいろいろなところをつないで、子どもの居場所を円滑につくっていくというようなイメージの図なんだけれども、それがこの文言から、やっぱり支援の形態を中間支援か直接支援かという言い方になると、それは分からないですよね。

○鈴木恭子委員　私はこれを読んで、水津さんが意図したことは理解したんですけど、確かに中間支援体制とすると、すごく漠然とした印象が大きくなると思うので、中間支援組織と書いてしまうと、そこは駄目なんですか。

○水津職務代理　駄目なんですか。

○鈴木恭子委員　私がここから読み取ったのは、きっと組織があるんだ、これからつくるんだろうなというのも勝手に理解していたんです。

○萬羽部会長　分かりやすいという感じではありますね。

○鈴木恭子委員　ただ、そこの組織という言葉を使わない理由が何かあるのかなという。

○水津職務代理　いろいろな読み取りができるということは問題があるかなとは思うんですけど。

○鈴木恭子委員　中間組織をつくるんだぞと明示してしまえば、どこかの団体も登録なり何なりして。

○萬羽部会長　ただ組織とも限らないのかなという気はしていて、一つの組織が担うとも限らないじゃないですか。複数の組織が担うかもしれないというのと、先ほどの（2）と多分かなり似てきている問題だと思うんですけど、結局のところ、私も直接支援と間接支援とか、そういう形態の問題じゃなくて、今までの、例えば行政が全てやらなくてはいけないとか、市民がやっている団体は市民がそれぞれ責任を負わなくちゃいけないとか、そういうことではなくて、新しいシステムというか、新しいものをつくっていくというか、新しい支援の仕方というか、そういう意味での体制だと私は思っていたので、組織よりは体制だと思ってはいたんですけど、皆さんがおっしゃっるということは多分分かりにくい部分があるんだとは思うので。意味としては間接、直接とかいう意味じゃなくて、（2）と同じような問題だと思うんですけど、行政がとか、市民がとかではなくて、それらが手をつなぐのための体制づくりという意味で、新体制だったんですけど、皆さんが御質問されているということはちょっと分かりにくいですよね。

○水津職務代理　あと、皆さんがそういうイメージがふさわしくないと思っているかどうかということももちろんあるかなと思うので。

○萬羽部会長　やはりこの中間支援という仕組み自体が、もしかすると意図と違うのであればあれなんですけど。要は市だけではどうしても、もちろん市も行政も何かするけれども、それだけでは賄えない部分も実際問題としてあるからこそ、新しい、居場所を支える何か構築したいなという気持ちを込めてみたつもりなんです。

○村上委員　私のイメージは、さっき組織という話が出たんですけど、むしろ組織ではなくて、組織というとちょっとやっぱり意味合いが変わってきてしまうので、私は不登校の子と外

に言っているんですけど、やっぱりいろいろな課題から、やむにやまれず自主的に活動されているような団体に対してのいろいろな支援がまだ足りてないというのが現実だと思うので、そこに対して、さっきの（2）のところとか、そうですけど、手を差し伸べていく。そこを何となく、だから、それがお金だけじゃなくて、情報とか含めて、そういうイメージ。

中間支援という言葉が物すごく聞いたことがない言葉なので、あるんですか、この言葉。

○萬羽部会長　ＮＰＯとかでは結構使われるので。

○村上委員　あるんですね。

○萬羽部会長　ただ、そう思って使ってしまったという問題点が多分あるので、もっと広く伝わるような、確かに難しいのかもしれないですけど、私たちはちょっと思い込み過ぎていたのかもしれないです。

○子育て支援課長　例えば中間支援という言葉についての注書きを入れるということはどうですか。私の感覚的にも、どちらかというと、ネットワーク構築よりも、中間支援のほうが用語としては守備範囲が広いというふうに捉えています。

○水津職務代理　すみません。注意書きというとどういう書き方ですか。

○子育て支援課長　米印で中間支援とは、中間支援体制とはという説明を入れる。

○水津職務代理　とかということの説明ですね。

今言っている、そういう体制づくりが子どもの居場所を市内の中で発展させることにつながるということは、皆さん、共通で思っていただけるかということなんですけど、それよりもやっぱり行政からの直接支援がもっとちゃんとできるようなことのほうが。それに関しても、村上委員がおっしゃるような、こういう小さい団体の方がすごく困っているようなことを、そこに相談するなり何なりして、そこが行政につなぐとか、新しい何かを一緒につくっていこうとするとかというようなことができるような受皿をつくることが、それは不登校のことだけではなくて、障がいのあるお子さんですとか、いろいろな形のケースをケアできるんじゃないかなというふうに思ったので、行政からの支援を直接、やりにくいところというのがすごくあると思うのと、最初の本体の会議のところでも、子どもの居場所というのは総合的に、既存のものだけじゃなくて、いろいろなことを考えなくてはいけないですよねという話があった中で、じゃ、居場所はそもそもどういうふうにつくるべきなのかとか、居場所ってどうなのかということを学びなが

ら、皆さんで話を受ける、子どもの要請をどう捉えるかということを、出してきたのを文言化したものだと思うんですけれども、そのときに、いわゆるここで書いている中間支援的なものがあることで、それが円滑に行われるんじゃないかと思いつつ、その話で来たと思うんだけども、そこについてのあれがないとちょっとここの提言のところに入れ込むことができなくなるのかなと思うので、そこだけでもちょっと、皆さん、御意見いただいて、共通認識が持てたらいいなと思うんですけれども。

○村上委員　　（3）番のところですよね、今の話。

○水津職務代理　そうです。

○村上委員　　これが入るということはすごくいいことだと思うんですよ。だから、今のお話は全然、賛成しますし、（3）のところでは言葉の問題だけ引っかかっていたので。だから、中間支援というのがある程度あれなら、さっきお話が出たみたいにただし書きを入れるぐらいで、伝わるんだったら。ただ、一般の市民にはなじみがないというのは事実だと思うので。中間支援って聞いたことがないですけれども。それは行政用語なのか、業界用語なのか、ちょっと分からないですけど。でも、それでおかしくないんだったら、別に使ってもいいのかなと。

○鈴木隆行委員　僕はちょっとそこに関してはいいとも悪いともよく分からなくてですね。理想としてこういうものをつくりたいという議論をしていて、そのためにこういうお願いをするという流れで来たと思うんですけれども、その方法論に対して、市が直接支援をするというのと、中間組織じゃなくて、中間支援体制を充実させるという方法を取るかというのは、それは方法論なので、結果としてよい場所ができればいい話ですね。これが施策提言の中に入っているということは、その前の段階で、問題点として市が直接やることには困難があるからということが述べられていなければ、伝わらないんじゃないかというふうに、そういうことだったとしたら、思います。だから、今、現実的にやっぱり市が直接やるのは難しいし、そういう、あるリソースを活用することが重要で、そういうことをちゃんとしてねというふうな意図でここに盛り込むのであれば、その前の段階で、よく学術論文とか書くときと同じなんですけども、問題提起をして、それに対する解決策はこうですというような論調になるんじゃなかろうかと思います。それがないじゃないですか。だから、僕、分からなかったんじゃないかな。今、水津さんたちが説明してくださった問題点ってあんまり言われてないですね。

○水津職務代理　すみません。プランの中に、ちょっとした文言がすぐに出てこないんだけど、居場所

に関する項目があって、そこに何かがあるので、この会議を持つようになったということだと思うので、大きく下がっていると。そこを解決、スタートとしてのここなんですよ。だから、何ページの何とか、そういう文言でちょっと。

○古源委員　　子どもの居場所の拡大というところだと思うんですけれども、まず、放課後の新プランによっての居場所の拡大というのと、子ども食堂やなんか、そういったような居場所というのと、あともう一つがＮＰＯですとか、そういった社会資源の活用をして、検討していきましょうという、それがあったんですよね。それが方向性としてあったので、今、こういう形になっているんじゃないかという。

○鈴木隆行委員　もちろんそうですけれども、だから、それをこの中に入れないといけないんじゃないのかな。そういう背景として。

○水津職務代理　これを出す前文のところに、今までのこの子育て支援制度なんかのくだりがあって、その部分について議論したみたいな感じ。最初のこれが、その中にそれが必要だということですね。

○子育て支援課長　今資料１７の報告について（案）のところに、前文の案としても言及しているんですね。そこの中間支援体制が必要だというところを言及している部分はないですけれども、現行計画の策定経過において、「子どもの居場所について、集中的に議論を行う機会を設けるべきとの意見に基づき設置されました」という、この会議の位置づけはそこに記載しております。事務局としては、子どもの居場所の多様性というところを共通認識として重要だよねというところでいくのであれば、ここは当然、市の担う部分と、市民が担う部分とというのは両輪として行われなければ達成し得ないというところはもちろんのところなので、中間支援体制というものも当然に必要があるだろうというふうには考えております。

○鈴木隆行委員　今ので言うと、中間支援体制というのは、市民が担うという。定義として。市がやるだけじゃなくて。

○子育て支援課長　市がやるだけではなくて。

○鈴木隆行委員　市民の活動があって。

○子育て支援課長　ただ、市民の活動がばらばらに活動していく。

○鈴木隆行委員　そういうことなのね。

○子育て支援課長　パーツだけであるよりかは中間支援体制があることによって情報共有が図られたり、それぞれの中での運営に対する支援になるものも図られるのであれば、それはその体制

があるほうが効果はもちろん高いと思われるので。

○鈴木隆行委員　個別の活動家の中間を支援するという。

○子育て支援課長　そうですね。

○鈴木隆行委員　そういうことね。

○子育て支援課長　例えば、子ども食堂を運営している人たちがたくさんいるだけではなくて、その運営している人たちに対して、情報共有したりとか、それぞれ相談であるとか何かを受けたりとか、皆さんが情報交換をするための場を設けたりとかというところを、今、社会福祉協議会のほうで委員会を設けてやっていただいているという意味では、あれも一つの中間支援の委員会を設けてもらっているんですね。食料の寄附がありますとか、農水省とかで備蓄品の配給がありますよみたいなのも、市のほうに情報が早く来るので、それを社協さんにお願いすると、迅速に皆さんに情報を流してくださるとか、そういう面でも動いていただくとかもあります。

○鈴木隆行委員　いいですか。居場所に関わっている人がつながり合うことができるような中間支援体制というのを、はっきり言っていたと思うんです。居場所に関わっている人ということだったんです。だから、僕は居場所に関わっている人というのは利用者だと思ったので。

○子育て支援課長　居場所の運営にしますか。

○鈴木隆行委員　なるほど。必ずしも利用者と思っていたわけじゃないですけども、何となくのイメージとして関わっている人というのは直接そこでやっている人もやられている人もとかいるんですけども、そこにいる人というのがつながり合うというふうに読んでいたので。

○子育て支援課長　居場所を利用している人たち。

○鈴木隆行委員　そう。少しよく分からなかったのはその辺なのかなと。だから、もうちょっと、さっき合点がいったのは、個別にある団体同士を包括的に見てくれるのが中間支援体制というイメージですね。

　ただ、僕が最初に思っていたのは、相手が個人だったんですね。だけど、今の話からすると、ある程度団体みたいな、そういうイメージになるのかな。

○水津職務代理　個人もありなんですね、１人でやっている人も含めて。

○鈴木隆行委員　まあ、そうなんですけど。想定しているイメージとしては、各種団体、各種活動同士とか、市との間をつなぐという言い方をすると、ここは人って書いてあるので、それで何かちょっと違うなと。でも、どう直すかいうのがちょっとすぐ分からないんですけども、自分の勘違いが分かりました。

○水津職務代理　幅広いイメージがあるところがまた分かりにくくしちゃうんだけど、例えばおっしゃるように、学校に行きづらくてすごく困っている方が、そこのところを見て、ここの団体、グループ、どうなのかなとか、ちょっと行ってみたいけど、どうかなみたいなことがもし相談できる場所があって、そういうのが御紹介できたりとか、ここの人と直接じゃないけど、また、お話ししたりとかというようなつなぎ方とかいうのも、深く考え、広くというか、団体同士が活発に交流したり、ネットワークをつくったりすることも必要だし、利用する人、そこに参加したい人にとっても必要な場所であるようなイメージを勝手に私の中で構築しているので、広い意味での中間支援というのができるような何か組織、それは１つじゃなくてもいいかなと思っているところもあって、種類があってもいいかなとか、そういう、ぼやっとはしているんですけど、みんなが利用しやすいというか、分かりやすいというか、参加しやすいような体制をつくるということがすごく大事で、そのための支援ができるようなものがあるといいなということなので、鈴木さんがすごく順番を追って御理解いただいたのがすごくよく分かったので、そう言って説明しないといかんのだなということがよく分かりました。

○古源委員　多分提言の中に盛り込まなくちゃいけない要素として、担い手が継続して活動できるような環境づくりがあったと思うんですね。団体の人が相談したい窓口であるとか、支援が欲しいときに、では、どうしたらいいんだろうというときに、この体制についてということが集約がされたのかなというふうに理解しています。

○萬羽部会長　そうですね。その前の持続可能とかというところがここに出てきているのかなと。ただ、もし中間支援の注釈を入れれば、ここの部分が何もない状態で読んでいたときにすごく広過ぎて、ぼやっとしていましたけど、例えば中間支援という仕組みの注釈を入れれば、もしかするとここの部分が、もう少しこのままだとしても、捉えやすくなるのかなという感じもするんですが。

○鈴木隆行委員　ＮＰＯのためのＮＰＯみたいな言い方をしているので、テクニカルタームなんですね。だから、やっぱりこれは用語説明する必要があるんじゃないかなと。そうは思ってなくて、中間の支援だと思っていたから。それが多分一般だと思うんです。ちょっと関係している人にはＮＰＯのためのＮＰＯみたいなイメージが最初からあって、それをベースに読むだろうと思うので、そこが多分超えなきゃいけないハードルなんじゃないかなと思います。

○萬羽部会長　おおむね注釈を入れるということでここの（３）については。

○鈴木隆行委員　もう一ついいですか。

○萬羽部会長　　どうぞ。

○鈴木隆行委員　そうだとして、関連するんですけども、中間支援体制を充実することというのは、それを市に対して言うのは、市が中間支援体制を整備するようにも読めてしまうんですけど、そうではないですよね。これは充実するという言い方は。そういうふうに活動しているところ、組織を支援してくださいという意味なんですよね。中間支援体制は、市がそういうことを、中継ぎをするわけではないので、でも、これは市に対して要求をしていることだから、そこら辺がちょっとぼやっとしているんですけど、ぼやっとしているというか。

○北脇委員　　市に対する要求というよりはこれ自体が前のところでも言っているように、市だけではなくて、みんなでやっていきましょうという考えに基づいた提言なので。

○鈴木隆行委員　充実することというのはどういう意味ですか。

○北脇委員　　中間支援体制というのは、私の理解だと、市民団体の方が自分たちの活動で精いっぱいで、でも、こっちのほうにやらないといけない課題があって、こちらができない。そういうのを中間支援組織だったり、体制の人たちに協力してもらって一緒にやっていく。そのときに協力するときに市も入っていただかないと解消できない問題だったりするんですね。そのときに、市が１の力で入るんじゃなくて、３、４の力で入ってくれるみたいな、そういうのが中間支援体制の充実みたいな、そういうイメージなんですけど。だから、もっと関わってください。あと自分たちも関わります、いろいろな人も巻き込みながらいろいろな組織とつながり、横のつながりを持ちながらみたいな、そんな感じのニュアンスなんですが。

○鈴木隆行委員　理想的な居場所があって、それをサステーナブルに、かつみんなが納得するようなものをやっていこうと思ったときには、そういう周りの体制も重要であるという話ですよね。それって、（２）番じゃないですか。

○村上委員　　多分（２）の手前の部分なんじゃないですかね。

○鈴木隆行委員　手前ですか。ああ、そうか。

○村上委員　　（２）は、ある程度、財源とかして、決まった場所とかを確保して、そこにいろいろな補助金とかが出てみたいなイメージで、（３）はそれ以前に、ちょっと集まりたいんだけど、場所がないとかの人にこういう場所がありますよとか。だから、多分、今お話が積極的に出たのは、そこはやりやすいと思って言われたんじゃないかと思いますけど、

（2）の部分で求めたいのはもうちょっとがっつり支援してほしいという。（3）は準備段階のイメージなんですけど。

○子育て支援課長　というわけでもないんですけど、（2）と（3）は多分、居場所を推進するためには両方ないと駄目なんだと思うんです。市が居場所の拠点をどんどん整備していって完結するような居場所のつくり方だったら、別に（3）はなくてもいいと思うんですけど、そうじゃなくて、いろいろなリソースを活用していって、それによって多様性を持たせるということであれば、（2）も（3）も両方必要な話だと思います。

○村上委員　　3はニーズを把握するということだから、（3）である程度、課題とある程度集約して、具体的な形にするのが（2）。両方ですけど、（3）から発展して（2）になるイメージなんですか。

○子育て支援課長　いや、どちらが先ということでもないと思うんですけどね。ニーズの把握のところとかも、利用者が直接来ている。各居場所に利用者が来ますよね。子どもなり、子育て家庭の人なりが来ますね。その場で、その居場所を運営している人はいろいろな声を聞く機会があるわけじゃないですか。ニーズに関しては。ただ、そこで終わらせるんじゃなくて、こういうニーズがあるよということを中間支援体制を活用して情報共有がされれば、ほかの居場所でもその情報が共有できて、こういう留意点があるんだとか、こういうものが求められているんだというのが分かるなら、そのほうがよりよいでしょうし、逆にあそこの居場所はこういうことをやっているよというのを支援している人が利用している人に教えてあげる機会があれば、それはそれで利用者の人の選択肢が広がるわけですね。皆さんが皆さん、例えば市としても広報するということで、えにえにとかを運営してもらって、居場所の情報は拡充していっても、それに気づかない人がいた場合に、こういうところも行きたいんだよねというのが分かれば。運営している人も知っていれば、うちだけじゃないよ。こういうところもほかにあるよというのを言えるという意味もあると思うので。どっちが先かとかということではなくて、多分両方一緒にやっていくことで効果が出るものだと思いますけど。

○水津職務代理　余談なんですけど、ちょっと前にスクールソーシャルワーカーとお話しする機会があって、今までスクールソーシャルワーカーが学校の中で解決してきたものを、これから地域とつながって、地域に子どもの居場所があるんだったら、そこに紹介できるとか、そういうデータとか情報を自分たちも持ちたいんだというお話をされていたんですよ。そういうときに、うちがやっている活動のところにたまたま来られたので、子どものサ

イトのえにえにだとか、のびのびーのとかというサイトがあって、お母さんに相談されたときにこういうところを紹介してもらえたから、またお互いの領分が広がりますよという話をしたんですね。形としたら、そういうことだと思うんですよ、求められているのは。欲しい情報がある人にちゃんと届けられるとか、そのために情報を構築したり、きちんとした形にしたり、それを伝えられるようにしたりすることが大事で、それが行政が主導ですると、どうしてえにえにのサイトを協議会でやってきたかというと、細かい民間の様子というのは行政では全然取り得ないものなんですよ。それを民間の団体である我々が関わることで、いろいろなところに呼びかけたり、調査をかけたりとかして、自分たち、民間なりのやり方での情報の取り方ができたり、それを更新することができたりすることがすごく価値があって、だからこそ、そこを運営するための行政としては補助をということだと思うので、その形が子育ての、最初にも言ったように、子どもがと言っちゃいけないね。まちの子育て施策とか、居場所の発展とか拡充とか、そういう子どもたちが誰でも、どこでも居場所が見つかるようなまちにするためには絶対必要なものだと思うので、ここに中間支援が分かりにくいとか、もちろんあるかもしれないんですけど、ここにそういうような組織をとか、体制をつくっていくことが、必要なんだと書くことで、後々やっぱりそれだからこうだねということにつながると思うんです、ここにあれば。

○村上委員　　それは理解しているんです。それはそのとおりなんですけど、私が思っているのは、確かにこういう悩みがあって、どこに相談したか分からない。市に行ってもいろいろな窓口がありますよみたいな声も聞くんですけど、私が言っているのはそれだけじゃなくて、実際に解決しようとしたら、相談するだけで済まないんですよ。やっぱりある程度支援をもらわないと解決できないという問題とか居場所ってあると思うので。だから、３は必要ですよ。だけども、さっき言ったのは、（２）のところでもうちょっと具体的な支援もしてもらわないと、いろいろな情報が分かっただけでは解決にならない人もいるので。そういう意味合いです。

○水津職務代理　（２）も（３）も当然必要だということですね。

○村上委員　　もちろんそうです。だから、（３）が進んで、ある程度その中で、どうしても必要なものは（２）で形にしていくみたいな。

○水津職務代理　（２）を入れることも（３）を入れることも同じように必要だと私は思っているんですけど。

○村上委員　　そうです。だから、なくすとか、全然言ってないですよ。

○水津職務代理　順番とか、そういう。

○村上委員　　（3）は、だから、（3）はこれでいいと思っているんですよ。（2）のところでもうちょっと。

○水津職務代理　（2）をもうちょっと深く書くというか。

○村上委員　　さっき言ったみたいに強調して、さっき私も文章を見ましたけど、確かに皆さんがおっしゃったとおりで、これ、２段階になっているんですよね。子どもの居場所づくりや運営に対して支援を充実しという、後に他機関の助成制度ということだから、それはちょっと私、少し読み違えていたので、それはそれでいいんですけど、その前段の、子どもの居場所づくりや運営に対する支援を充実しというところで、もうちょっと具体的に書いてほしいなと思います。

（2）の話に戻っちゃいましたけど。（3）はもう私、納得しているので。

○萬羽部会長　　じゃ、先に今の（3）に関しては、鈴木委員から質問があった中間支援体制の充実というのも、市ももちろん関わりますし、市だけじゃなくて、みんなでその支援体制をつくっていくという意味、あえて入れているつもりなので、その注釈を、中間支援というものについての注釈は入れるんですけど、そちらの方向でよろしいでしょうか。

一旦、では（3）はそのようにさせていただいて、先に（2）のほうに戻ったときに、例えばなんですけど、（2）が今おっしゃったみたいに、確かに２段構えになっていて、後半に他機関の助成制度とかというのが来ちゃっているので、より一層それに頼るっぽく見えなくもないかなという気もしなくもないので、例えば他機関の助成制度の情報提供にも努めつつとか、それをちょっと先に持ってきて、むしろ後半に、後半にというか、それと市の制度と両方含めて、運営する支援を充実させていくという、その充実させていくというところが最後のまとめであるべきなのかなというふうにちょっと思ったりしたんですけど、順番的な問題ではもちろんないと思うんですけど、意味としてはそういうつもりだったのかなと思ったんですが。

○村上委員　　言葉の問題があると思って、さっき鈴木さんが言われたみたいに充実という言葉がすごく曖昧なので。

○萬羽部会長　　曖昧ですね。

○村上委員　　もっとやっぱり実際に私も、不登校をテーマにして、そこにウエートを置いているので、多少皆さんは違和感があるかもしれないんですけど、やっぱり困っているんですよ

ね。支援がなくて。フリースクールなんかの話を聞いても、月５万円かかるんですとか、そういう話が実際にあって、そこを５万円出してくれとは言わないですけど。そこはもうちょっと支援、これはもちろん、小金井市だけの問題じゃなくて、国全体の話も聞いているんですけど、そこまで動いてないというのは事実だと思うんですけど、もうちょっとそこを強化してほしいというのがあります。

それと、ごめんなさい。ちょっと戻っちゃいますけど、他機関というところで、これでいいんですけど、他機関の中に他自治体が入るということですよね。

○水津職務代理　機関にすると含まれるんじゃないかと私は思うんですけど。

○村上委員　　いや、他機関の助成制度って、例えば世田谷区の取組だとか、広島で何をやっているかとか、そういったところは想像できないんですよね。この言葉は。

○水津職務代理　機関だと自治体は含まれないですか。

○村上委員　　いや、含まれるけど、文章がとにかく一般的な文章なので、もっと掘り下げたほうがいいというか、何か加えたほうが意味合いが分かりやすくなるんじゃないかなと思っているんですね。充実することって言われちゃうと。だから、私が言ったのは財源を提供するとか、そういうところまで書かないと。

○水津職務代理　溶け込み例に書いてあるように、括弧づけでというのは事務局提案ですよね。

○子育て支援課長　村上さんがおっしゃったものが、部分部分での修正なので、それをつなげたときに分かるように溶け込み例をつくっているということです。

さっき村上さんの中から、資源（財政）を財源に変えるという御意見があったんですけれども、言葉の使い方になるかもしれないんですが、居場所の運営に対して財源を提供するというのは、どういうイメージでおっしゃったんですか。

○村上委員　　だから、ストレートに言えばお金ですけど、お金を出してくれということなので、財源というのもよくないのか、いや、ちょっとおかしいかもしれません。言葉として。

○子育て支援課長　運営のために、金銭的な支援ということであれば、それは補助金になる。

○村上委員　　ああ、補助金。

○子育て支援課長　なので、補助ないしは助成制度。以前の助成制度とかというふうに書いていたと思うんですけど、既存の居場所の活用とかも含めて、あらゆる手段での取組をするというところを包括して整理したものが今回、子どもの居場所づくりや運営に対する支援を充実しの「支援」に含まれているんですよ。場所の確保の情報なりとか、マッチングの協力みたいなものとか、あとは今ある助成制度を見直すとかも含めて、何かだけの支援で

はないので、居場所づくりや運営に対する支援という記載にしたんですね。

○村上委員　　言われていることは理解するんですけど、私が言っているのは、運営に対する支援を充実しというところに含まれているということなんですけど、それは多分そうだと理解するんですけど、それだとすごいさらっとしているので、一般的に経営資源といったら、人、金、物、情報というんじゃないですか。そういうものを入れておいたほうが、特に補助金は入れたほうがいいんじゃないかと。

○萬羽部会長　　なので、順番を入れ替えることによって、その助成制度とか、既存の制度とかという言葉が先に来たら、支援というのがそういうものなんじゃないかなというのが少しは伝わりやすくなるかなと思ったんですけど。

○水津職務代理　他機関の助成制度等の情報提供のところが恐らく金の部分。

○萬羽部会長　　そうです。それを先に。

○水津職務代理　「子どもの居場所を催す場所の確保について支援」というのが場所の提供ということになって、そこも含めて、子どもの居場所の運営を支援しますということになればということですね。

○萬羽部会長　　そうです。そうすると、もう少ししっくりと、頭に「支援を充実し」と先に来ちゃっているので、ぴんと来ないかもしれないんですけど、順番を入れ替えれば、支援の中には助成が含まれるんだなということがもう少し伝わりやすくなるんじゃないかな。

　すみません。ちょっとそれで残りがあと７分ぐらいしかないんですが、（４）番のところに行かせてください。（４）番のところも村上委員から御意見をいただいていまして、まずタイトルのところの子どもというのを、例えば「すべての子どものために様々な居場所があることを」というふうにして、あと「広報」という言葉を「周知」というふうにするということと、あと文面の「気軽に」というところを「それぞれの求める」に差し替えるというような御意見をいただいて、溶け込み例として、こちらに示していただいているところになるんですが、これに関して御意見をお願いいたします。

○水津職務代理　広報が陳腐ということならば確かに。

○萬羽部会長　　周知のほうが広い意味にもなりますしね。広報が含まれないわけじゃなくて、周知のほうがより広くはなるかなという気がする。

○水津職務代理　よく分からない。皆さんの御意見で。

○萬羽部会長　　意味が変わることではないような気がするので、周知というのを入れつつ。もう一つが、「気軽に」というのが、前回までの議論の中で、割と気軽にというところも大切だ

というので「気軽に」が入っていたところもあるので、これをそれぞれの求める居場所というふうに変えるかどうかというところはいかがでしょうか。「それぞれの求める」という視点も大事だなと思いつつも、でも、「気軽に」というのも今までの議論の中では探すことが大変だというのでは意味がないのでというような経緯もあって、「気軽に」というのがあえて入っていたようなところもあるので、このあたりはどうしましょう。両方入っていたら駄目ですか。それぞれの求める居場所を気軽に探せるという。

○子育て支援課長　ちょっとしつこいかもしれない。

○萬羽部会長　　しつこいですかね。

○子育て支援課長　「求める」までを言うと、「気軽に」が打ち消されるような。

○萬羽部会長　　相反している２つの言葉が入っているみたいな。

○子育て支援課長　求めなくてもいいんだと思うんですよ。行ってみる。時間ができたから行ってみる。

○水津職務代理　でも、「それぞれの求める」の「求める」は、「それぞれが求める」にかかるわけだから。

○萬羽部会長　　今日は何もしたくないというのも求めているんですよね。

○水津職務代理　その求める人がいろいろな人がいて、その人たちが気軽に探せるという意味だから、別に相反さない気もするんだけど、駄目なのかな。

○萬羽部会長　　もちろん強く求めている場合もあれば、そうじゃなくて、単純に今日はちょっと家に帰りたくないから、もう少しここにいたいというのも求めるだと私は思ったので。

○水津職務代理　自分が今欲しい場所を気軽に探せるという意味だから、それは駄目ですか。

○古源委員　　えにえにを見ると、気分でいたい場所が探せる、子どもでも探せるというところがちょっとポイントになっていると思うんですね。なので、利用しやすさというか、求めているものがもしも子どもの目線で、子どもが自分で選べることが簡単にできるということなら、「気軽に」なんだと思います。

○水津職務代理　「気軽に」を重視すると、そういうことになるというか。でも、必要な情報がというところを重視すると。

○子育て支援課長　２行目だね。

○古源委員　　この居場所の情報やそれぞれの特色を知ることができるというほうに、例えば大人も子どももそれぞれ求める情報をという、そっちにつけるということ。

○萬羽部会長　　いかがでしょうか。

○水津職務代理　２番目に書いてあるほうは、どこに置くか分からないけど、「気軽に」がポイントだ

よという文章になるということですね。

○子育て支援課長　１行目は「気軽に」、２行目は「必要なもの」という。特色を知ることができることというのの中に、「求める」。

○萬羽部会長　　じゃ、「子どもと保護者が気軽に居場所を探すことができること」というのが１文目で、前のまま、例えば残して、２段目を、「それぞれの求める居場所の情報やその特色を知ることができること」というふうにするというのはどうでしょうか。日本語的にあれですかね。

○鈴木隆行委員　何か最後のあれ、変だと思います。「それぞれの求める居場所の情報やその特色を知ることができる」というのは、ある居場所じゃなくて、あなたの求める居場所は何ですかと聞いているような感じですけど。いろいろな居場所があって、それがどんなものであるかというのを気軽に情報を取得したい、ちゃんと情報を取得したいということは重要ですけども、そこに自分の求めるものがあるかどうかというのは別の話ですから。

○萬羽部会長　　なるほど、じゃ、やっぱり逆ですかね。例えばですけど、「子どもと保護者がそれぞれの求める居場所を探すことができること」というのにして、２行目が、「居場所の情報やその特色を気軽に知ることができること」。

○鈴木隆行委員　僕はそっちの方がいいと思います。

○萬羽部会長　　そのほうがすっきりしますかね。

○子育て支援課長　例えばですけど、２行目のほうに、それぞれの求める居場所が見つけられるよう、その情報や特色を知ることができる。

○萬羽部会長　　悪くはないと思うんですけど。

○水津職務代理　これは何を言いたいんだっけ、そもそもは。簡単に探すようにできることが大事ですよということと、それぞれの自分の必要な情報が得られることが大事ですよということですよね。

○萬羽部会長　　事務局からの提案も確かにそれでもいいような気もしなくもないんですけど、村上委員が御提案されているのは、やっぱり１行目に「それぞれの」というのが入ったほうがいいのかなとも思ったんですが。

○水津職務代理　「気軽に」を後ろにするということですね。

○萬羽部会長　　そうです。「気軽に」が２行目で、村上委員のほうの御提案としては、やっぱり子どもと保護者がそれぞれの求める居場所を探すということを強調されたのかなと思ったんですけど、村上委員、どうですか。

○村上委員　　そうですね。今言っていただいたとおりですね。

○萬羽部会長　　やっぱり最初のほうに「それぞれ求める」と入れて、２番目のほうに「気軽にその情報や特色を知る」というほうだと、何かあれですか。問題がありますか。主語がないとか、そういう。

○子育て支援課長　えにえにのコンセプトとして、子どもも主体的に調べられるというところが大事なんじゃないかなと思って。

○水津職務代理　だから、保護者も子どもも、気軽に自分の気持ちでということでしょう。

○子育て支援課長　なので、子どもも気軽になのかなという理解をしていたんですけど。

○萬羽部会長　　子どもが１行目にしかついてないからということですか。

○子育て支援課長　はい。

○北脇委員　　大人は大人目線で調べることができるじゃないですか。でも、子どもって、大人が行ってほしい場所じゃなくて、自分が行きたい場所を調べることができないので、子ども目線というのがすごく大事なのかなと思っていて、それぞれ、大人が求めている居場所を気軽に調べるとか、そういうことというのはそこまで大事なのかなとか。

○水津職務代理　居場所と書いてあってね。

○北脇委員　　主語は子どもかなと。

○村上委員　　今のお話で言うと、子ども目線ってよくいろいろ出てきているんですけど、そこはちょっと違和感があって、子ども目線というのは別にそれ自体は否定しないんですけど、要するに、切実な状況、そういう子どもたちにとっては自分で気軽に見つけるということじゃなくて、やっぱり親とかも含めて、親子で何か解決策を、何か改善を期待して、そういう場所を探しているので、何かちょっと一般の、一般のといったらあれですけど、普通のお子さんが気軽に探すというのとはちょっと違う。だから、親も当然絡んでくるし。子ども目線で子どもが自主的に探すというのだけではない、ニュアンスで探している子どもがいるのでということも。

○水津職務代理　子どもも大人も気軽にという。選ぶのは子どもだけじゃないということですね。

○村上委員　　そういう意味合いを含んでいます。子どもだけでは判断できない状況になっているという。子どもたちにも居場所を提供してほしいというのがあるので。

○水津職務代理　そういう問題ももちろんあるし、子どもの中で、別に学校行ってないわけじゃないけど、何となく行きたくないとかという子が探せるようなサイトにしているので、自分の気持ちが今どういう状況かみたいなのを表していくと、こんな場所があるよみたいな探

し方ができるサイトにしているんですよ。そういう意味で北脇さんが言ったように、子どもの意思で探すものがあることが必要。本当に村上さんのおっしゃるように、すごく困って、学校にも行けないで籠もってしまって、すごく重大な局面にあるときに、子どもが気軽にというのとは、そこはないというのは分かるんですね。だから、そういう人たちも探しやすい。その人たちには探しやすいよりも特徴がちゃんと分かって、その場所が探せることが大事じゃないかなと思うんですよ。

○村上委員　　そうですね。だから、全ての子どもに居場所があることだとか、そういうことを含んで。あ、そうですね。全ての子どもに居場所があるというところで、学校の居心地が悪い子にもというような、多様な居場所というニュアンスを酌んで、子どもたちが自分で探すこともあるだろうし、そうじゃない場合も含めて、何か求めれば居場所があるよという。

○水津職務代理　さらにそれがすごくハードルが高くないほうがいいというのがあって、探すときにぺらぺらと見たときにはこれを押してみてというような、そのハードルの低さみたいなのが、ひとつその居場所にとっては重要なものかなというふうな認識で、今、その子どもが検索できるということをやっているんですよ。なので、そのことも必要だし、すごく深刻な方にとっても、どうしようかなって思う中でも、でも、やっぱり見ることは、探すのは簡単に探せるということは必要じゃないかと思うんですよね。

○村上委員　　それはだから、さっき、いただいたとおり、３行目のところに「気軽に」というのを入れるというのであれば、感覚的には近いのかなと思うんですけど。

○鈴木隆行委員　いいと思うんですけども、いただいた御意見のままでいいと思うんですけど、１行目に「それぞれ」を入れて、２行目に「気軽に」が入るでいいと思うんですけど、想定しているケースが２つあって、すごい困っている状況にあったときには、保護者と子どもと一体となって、こういう居場所はないだろうかと探すわけですね。そういうのに対応しているのが１行目で、そうではなくて、ふだん子どもたちが自由にどんな内容かなって、気軽に探すというのが２行目なんですね。だから、強いて言えば２行目に、子どもというニュアンスが入ってないけれど、それでいいかというだけが問題で意味合いとしてはもういいんじゃないかというふうに思います。

○萬羽部会長　　ありがとうございます。その方向で、最後確認しようかと思うので、子どもというニュアンスが２行目に入ればより一層いいということですよね。子ども自身がというか、子どもにも探せるということが入るといいのかなと思うので、ちょっとそこで変えたい

と思います。時間が過ぎてしまいましたので。

○子育て支援課長　いや、これが最後なので、皆さんが無理でなければやったほうがいいです。

○萬羽部会長　　では、文言を確実に考えちゃったほうがいいということですね。

○子育て支援課長　はい。

○萬羽部会長　　じゃ、今の方針で、すみません。（4）のところ、今、決定しましょう。子どもの居場所の、「広報」というのを、じゃ、これは「周知に協力すること」にします。よろしいでしょうか。

その後の「子どもと保護者がそれぞれの求める居場所を探すことができること」として、その次の最後の文が子どものニュアンスをどういうふうに入れましょうか。「子ども自身も居場所の情報やその特色を気軽に知ることができること」とかじゃ駄目ですか。

○水津職務代理　ここは子どもに限定しても大丈夫なんでしょうか。

○鈴木隆行委員　意味合いとしては「子どもも」と入れたいんだけれども、あえて入れなくても分かるのであれば、いいということですね。そこだけの問題。

○萬羽部会長　　「子どもと保護者が」というのがその前の文にあるので、その前提としては入っているつもりだったんですけど、強調するかどうかっていうことですね。

○北脇委員　　私は２文目のほうが、子どもが気軽に居場所を探すことができて、保護者のほうが居場所の情報や特色を知ることができるのかと思ったので、子どもはそんな情報とか特色より、何か居場所があるんだよというのが、市内にこれだけ散らばっているんだよというざっくりしたところで、実際行ってみて、文字情報とかに書いてあっても分からないこととかも行ってみて感じることがあるので、そうなると、２文のほうが子どもが気軽に居場所を探すことができて、保護者も居場所の情報やその特色を知ることができるみたいなふうになるのかなと思って聞いていました。

○鈴木隆行委員　そこに関しては、情報とか特色という表現が子ども向けではない表現で、でも、実際はどんな居場所なのかというのは子どもは知りたいわけだから、意味としてはいいと思うんですね。ただ、僕個人はそうであればこのままでもいいかなとは思います。こんな居場所もある、こんな居場所もあるという、居場所の種類、特徴が分かれば、それは、じゃ、行ってみようかなということになると思うので。むしろ、自発的にこういう居場所はないかなと言って探すというケースはレアだと思うので。そういう意味では、いろいろな居場所がどういう特徴を持っているかというのが網羅されていたら情報源としてはいいのかなと。

○水津職務代理　じゃ、子どもの居場所の周知に協力することと、子どもと保護者がそれぞれの求める居場所の特色を知ることができることと、子どもも気軽に情報を得ることができるとか、探すことができるみたいな。最後は子どもが探せるということを基軸に書くのが、探しやすいとか、その３本にしますか。

○鈴木隆行委員　それぞれの求めるの後に、特徴とかが入ると望ましいと思うので、それはもうこのままじゃないですか。

○萬羽部会長　　居場所の情報。ここは主語のほうがいいですか。

○鈴木隆行委員　それぞれの求めるものの特徴を探す。求めるものというのはあるわけだから、こういうものというのが。あるんだったら、同じものがあるかなと探すので、その場合には後ろに特色とか。

○萬羽部会長　　子どもも気軽に居場所を探すことができることが、例えば最初に来て、２番目が子どもと保護者がそれぞれの求める居場所の情報や特色を。

○鈴木隆行委員　だから、それぞれの求める居場所の情報を知るというのは変だと思います。求める居場所というのは像があるわけだから、それがあるかないかですね。

○水津職務代理　居場所を知ることができるとか、探すことができるとか。

○鈴木隆行委員　そう、だから、元に戻ります。子どもと保護者がそれぞれの求める居場所を探すことができることという、そこは確定していて。

○水津職務代理　それでいいのか。それを子どもが探せるということ。

○鈴木隆行委員　そう。子どもが探すときには、何かないかなとか、そういうことだから、この居場所は何だろうな、ぼけっとできるのかなとか、何があるかなということだから、それはちょっと大人向けの言葉かもしれないけれども、情報とか、その特色を知るということになるのかなというふうに思うんですけど。だから、そうすると、冨田さんが言うことを踏まえると、そっちが先に来るかもしれないですけれども、居場所の情報や特色を気軽に知る。気軽に居場所の情報やその特色を知ることができるということが先にあり。

○水津職務代理　それの主語は子どもがですよね。

○鈴木隆行委員　そうそう。先に立つんだとすると、多分主語を入れなきゃいけないかもしれません。

　あとは２個目にそれぞれの求める居場所を探すことができる。ちょっと文として少し足らないから、主語が欲しい感じはするけれども、困っている場合とかそういうのは。

○村上委員　　今の話、だんだん長くなってきたからあれなんですけど、気軽に探せるというのと、「大切な視点」の中で「すべての子どもに居場所があること」と書いてあるので、全て

のいろいろな人たちが、それぞれ求めるものがあるというのと、気軽に探せるというのは、どっちが優先なんだって言ったときに、やっぱり全ての子どもに対しての求めるものがあるというほうが優先するんじゃないかなというふうに思います。

○水津職務代理　でも、ここは情報と広報の問題だから。

○村上委員　　問題だけど、気軽にというのがそんなに強調しなきゃいけないのかなというのが正直私は疑問です。

○北脇委員　　求める居場所があるかというのを探すのではなくて、求める居場所を一緒につくり上げていくところもあるので、最初からそういうものが用意されてて、そこに行くだけではなくて、そこに行って、だんだんそういう地域性みたいな、集まってくる人によって支援者も形を変えていくので、まずは居場所に行ってみるという、そういうアクションが必要だと思うんですね。そのためには、気軽に。

○村上委員　　そこはちょっとニュアンスが違いますね。申し訳ないけど。気軽にじゃないんですよ。そういう情報サイトがあって、それを見にいって、これだったら行ってみようっていう精神状態の子どもだったらいいですけど。

○水津職務代理　そういう子どものための居場所の検索を目指しているので、そこもいっぱいいるわけじゃないですか。特に何もする予定はないけれども、本当に学校に行きづらいわけじゃないけど、何となく自分がちょっとどんよりしてて、どこか行けないかなとかというときの気持ちが出ているんですよね、そのサイトの中に。何となく嫌だとかさ。ただ、おなかがすいているとか、ごろごろしたいとかというようなところで検索するということだから、すごく自分が積極的に求めているということばかりじゃなくて、今いる子ども、全ての子どもですから、どんな子どもにも居場所が必要なので、そういう意味で、その子たちが自分で自分の気持ちに合った場所が選べるということが、全ての子どもにもつながっていると私は思うので、気軽にということは必要だなと思っているんですけど。

○村上委員　　いや、分かるんですけど、ここなのかなというのは疑問です。

○北脇委員　　さっきの中間支援の話もそうなんですけど、団体、支援者側って支援する自分たちの団体を運営するだけで精いっぱいなんですね。広報とかもうまくできてなかったりして、せっかくやっているのに子どもに伝わらないと、子どもたちが来てくれない、自分たちがせっかくその場を用意しても来てくれない。そのためにはやっぱり中間組織みたいな、支援みたいなのがあって、紹介してくれるところがあって、こういうところがあるから行くんだよというふうになる。そのときにやっぱり気軽に教え合うみたいな、気軽に探

せるという、その入り口はすごく大事だと思うんですよね。

○村上委員　　だから、気軽にというのと、それぞれの求めるというのは、それぞれがそれぞれのものがあるというんだから、ちょっとそこは別のものなんでしょうけど。あとはもうニュアンスの問題ですかね。私はその文言を入れるのに、そこまでこだわるというのはいまいち分からないです。正直。別にそれが悪いとは思わないですけど。ニュアンスは分かりますけど。

○水津職務代理　基本的に私は重要だと思っているんですけど。全ての子どもとうたっているんだから、そこは絶対重要じゃないかなと思っていますけど。今だってそもそも子どもの居場所がやっぱり少ないとか、何もしないと家の中でいるとか、行くところもなくてごろごろしているだけとか、家でゲームしたり、テレビを見たりするだけという子にとって、やっぱり人と関わる場所が必要だよね、学校と家庭以外にどこかあったほうがいいよねということを大人が話し合って、そのことを子どもたちに知ってもらいたいわけだから、そういう気軽に行ける場所があるということを自分で検索して探せたりとかするというのは、子どもの居場所をこれから広げて考えたときは、重要なキーワードだと私は思っているので、それでやっぱりサイトも運営して、その立場で運営しているというところもあるんですけど。

○村上委員　　だから、サイトがあって、サイトが必要で、そこを見に行けばある程度分かる状態になっているのであれば、気軽にというのは、そこまで意味があるのかなと思うんですけど。いや、別に反対しているわけじゃないですよ。絶対入れたらおかしいという意味では全くないんですけども。

○北脇委員　　サイトの話をしていますけど、サイトをいじれるかって、多分３年生以上になると思うんです。そうすると「気軽に」が入ってれば、じゃ、１年生とか、そういう年齢の子はサイトをいじれない。タブレットをいじれないじゃないですか。じゃ、そうなるとどうなるかっていったら、じゃ、サイトをいじれない子のために、そういうマップをつくりましょうとか、あと、お金が潤沢にある子はお金を払ってでもそういうところに行けるけど、例えばプールとかといったときに、うちの子にプールに行こう、プール、習うと言ったときに、メガロスのプールを思い浮かべる子と、栗山公園の１回５０円のプールを思い浮かべる子がいるんですよ。でも、その情報を２つ持っていたら、じゃ、どっちを選ぼうかなってなるじゃないですか。でも、その情報が全くない人もいるんですね。そういうときにやっぱり目に見える「気軽に」がついていれば、目に見えるマップをつ

くったりとか、そういうふうな情報、提案の仕方ができるので、そういった意味では、「気軽に」はすごく大事ということなんですよね。

サイトもようやくできたんですけど、今までなかったので、一覧表にするというのは、皆さんが求めるところが気軽に探せるようにするって今までなかったので、あると思っていたのになかったんだったら、じゃ、私が支援者になって立ち上がろうという方も出てくる。そういう見える化する、気軽に調べることによって見える化して、足りないところが分かるというのもあるので、やっぱり調べやすいとか、分かりやすい、皆様に伝わるというのはとても大事なことなんだと思います。

○萬羽部会長　これまでの議論でも主体性とか、子ども自身の主体的な気持ちとかいうことを重視していた経緯から考えると、「気軽に」というのはそういうところから書いてきているので、今までの議論だと割と重視されてきた部分であり、もちろん「それぞれの求める」「すべての子どもが」というところももちろん大事なので、私自身は優先順位というのは非常に難しいなというのは本当に思うんですけども、ただ、並びを見たときに、１、２、３というのが、２はちょっと違うんですけど、子ども中心の話になっているので、そう考えると、優先順位という意味ではなくて、子ども中心にということを考えると、「子どもが気軽に居場所の情報や特色を知ることができること」というのが例えば先に来て、「子どもと保護者がそれぞれの求める居場所を探すことができること」でもいいのかなとは思いつつ、ただ、優先順位という意味では決してなくて、内容としては、「子どもと保護者がそれぞれの求める居場所を探すことができること」というのと、「子どもが気軽に居場所の情報や特色を知ることができること」というので言って、その順番をどっちを先にするかというところですね。

○水津職務代理　どちらでもいいよ。

○萬羽部会長　私は、これは別に優先順位というわけじゃないと、個人的には思っていて、両方同じ並びで書いてあるので、ちょっとほかが子どもが主語なので、確かに「気軽に」が先に来てもいいのかな。それだけの１番、２番とかということではなくて、それはちょっと思ったりはしたんですが、ただ、どっちがどっちでも、決してこれが先に来たから１番というわけではないので、どちらが先に来てもいいかなと。

○北脇委員　やっぱり今まで子どもの主体性とか、子どもの意見を聞くとなっているので、やはり親に手を引かれて子どもが居場所に行くわけではないので、もちろんそういう方もいるとは思うんですけど、そうじゃない子でも自分から自ら探し出して行ってほしい。行き

たいと思う子には行ってほしいと思うので、そうなると、子どもが先、その後に子どもも大人も情報を取ってこれるのが続くのではないのかなと思います。

○萬羽部会長　いかがでしょうか。決してこれは優先順位というわけではないような気が私はするのでどちらも同じ、順位があるわけではないような気がします。

○鈴木隆行委員　僕が何か言っちゃったからいけないんですけど、もしも気軽に探せるということ、大上段に構えるならばという意味で言ったので、別に僕も特にこだわりはないのでいいです。すみません。

○萬羽部会長　（4）は、今の順番でも、子どもが気軽に居場所の情報や特色を知ることができる。すみません。見出しが、「子どもの居場所の周知に協力すること」になって、１つ目が「子どもが気軽に居場所の情報や特色を知ることができること」。その次に、「子どもと保護者がそれぞれの求める居場所を探すことができること」という形でいかがでしょうか。

そして、すみません。そのような方向で考えつつ、頭を冷やしたところで（2）番なんですけど、先ほどの。

○子育て支援課長　すみません。「子どもと保護者がそれぞれの求める居場所を探すことができること」って、子どもと保護者がパラレルに求めるような印象があってちょっと気になったんですけど。

○鈴木隆行委員　点を打つかとかそういうことを考えていたんですけど。

○子育て支援課長　そこのところが今せっかく議論が煮詰まったのに、熟してきたので、ちょっとそういう誤解を与えないような、手立てだけ打っておきたいなと思ったんですけど。

○鈴木隆行委員　同じことを言おうとしていました。ここ、「が」の後に点を打っても駄目ですよね。

○萬羽部会長　「が」の後に点。

○鈴木隆行委員　子どもと保護者が。

○子育て支援課長　それぞれに子どもが行きたい場所、保護者が行きたい場所みたいな。

○鈴木隆行委員　ちょっと困っちゃうんですね。

○水津職務代理　子どもも保護者も。

○村上委員　子どももか。

○水津職務代理　子どもも保護者も。

○村上委員　「子どもも」のほうがいいかもしれない。そのぐらいでいいんじゃないですか。

○子育て支援課長　子どもも保護者も。で、（4）は終了。

○萬羽部会長　　さっき（2）がちょっと曖昧なまま行ってしまったんですが、確定しなきゃいけないので、どうしましょうか。助成の話をもう少し強調させるように入れる。

○村上委員　　簡単にすると、拡充の前に、助成制度の拡充という。「助成制度等の」かもしれない。

○萬羽部会長　　市の既存制度の見直しや助成制度等の拡充を含め、子どもの居場所づくりや運営に対する支援を充実し、他機関の助成制度等の情報提供に努めること。

○鈴木隆行委員　既存制度の中に助成制度は入っているんですか。

○萬羽部会長　　入っていると思っていたんですけど、それだとちょっと弱いという意見で。入っていると思うというか、入っているつもりだったんですけど。

○水津職務代理　言いたいこととしては、既存の制度の見直しをして、できる限りの助成などの拡充を図って、さらに、ほかの機関の制度の情報提供とか、他市の状況とか、そういうものをもっと情報提供に努めることということにしたいということですね。

○村上委員　　そうですね。

○鈴木隆行委員　一つの文章の中で言っていることが多過ぎる気がする。

○萬羽部会長　　他機関のほうからはむしろ２文目というか分けますか。

　１つ目が、見出しが子どもの居場所づくりや運営に対して支援すること。これはこのままで、例えば漢字で行って、１文目が市の既存制度の見直しや助成制度等の拡充を含め、子どもの居場所づくりや運営に対する支援を充実すること。２文目に、他機関の助成制度等の情報提供。

○鈴木隆行委員　情報提供というのは誰が誰に提供するんですか。市が市民にですか。

○水津職務代理　ここはそういうこと。逆もあるかもしれない。こういう情報があるから、行政として何かちょっと、例えば何か推薦かけないかなとか、取りやすくするために何かいい方法はないかなという相談とかもあるかもしれないから、別に市だけが情報を持っているわけじゃないじゃないですか、他機関の助成制度というのは。もちろん情報としては多いかもしれないけど、自分たちがつかんできたものを、何かこう利用するための方法をちょっと聞きたいなとかということも当然あるかなと思うので、相互かなという気がするんですね、ここは。

○鈴木隆行委員　提供じゃなくて共有する。

○水津職務代理　そういうことだね。

○萬羽部会長　　他機関の助成制度や自治体での取組などについて情報収集、共有に努めること。

○水津職務代理　よし。

○萬羽部会長　頭には「市の」と書いていますけど、だからこそ２行で文を分けちゃって、充実するという、「市の」と始まる、「充実する」というので１回終えちゃって、その次の「他機関の助成制度や他自治体で取組等について情報収集、共有に努めること」というのは私は先ほど鈴木隆行委員からの質問に対してだと、市が必ずしも共有するわけじゃなくて、それこそ中間支援が共有することもあるので、そういう意味で２行に分けちゃうことではいかがでしょうか。

○子育て支援課長　大丈夫ですか。

○水津職務代理　相互共有というのは当然あると思うから。

○子育て支援課長　でも、２番で施策提言自体が基本的に市に求めていることという整理になっていますよね。

○萬羽部会長　だから、情報共有する仕組みづくりに努めること。

○水津職務代理　また新しい言葉が。

○萬羽部会長　言いたいことはそういうことなんですよ。一方的な情報共有だけじゃなくて、双方向の情報共有の。市が必ずやるという、そういう仕組み、仕組みというか、そういうのができるといいなというつもりなんです。

○水津職務代理　何のためにそれをするかというと、子どもの居場所を充実するために情報を共有しましょうよという話だから、どっちがやれとか、やらないとか、そういう話じゃないんだよね。

○萬羽部会長　情報収集、共有していく。努めることでも変じゃないですかね。変じゃなければ努めるでいいですよね。

○水津職務代理　お互いに努めるね。

○萬羽部会長　そう。お互いにというか、みんなで努めるというか。

○鈴木隆行委員　共有すること。

○萬羽部会長　そうですね。共有することでいいかなと私も思います。

○水津職務代理　じゃ、おまとめください。

○萬羽部会長　すみません。では、今の（２）番は、子どもの居場所づくりや運営に対して支援すること。市の既存制度の見直しや助成制度等の拡充を含め、子どもの居場所づくりや運営に対する支援を充実すること。他機関の助成制度や他自治体での取組等について情報収集、共有すること、です。

○子育て支援課長　もう一回言ってください。

○萬羽部会長　他機関の助成制度や他自治体での取組等について、情報収集、共有することとか、共有すること。

○子育て支援課長　情報収集し、共有すること。持ってこいという感じになりますね。大丈夫ですか。

○萬羽部会長　「他機関の助成制度や他自治体での取組等について情報を共有すること」にしますか。

○村上委員　そんなに変じゃないと思います。

○水津職務代理　集めてほしい。

○萬羽部会長　そういう思いが。そうですよね。

○水津職務代理　集めろと言っているわけじゃないけど、やっぱりないものを補う姿勢としては、やっぱり欲しいかな。

○萬羽部会長　将来的に収集も含めた前向きな共有ということで、他機関の助成制度や、他自治体での取組等について情報共有、最初のに合わせると、情報共有にも努めるでいいでしょうか。

○子育て支援課長　すみません。谷村さんから２番のところで、その次の後段の子どもの居場所を催す場所の確保について支援することは、その前段の支援に含まれているんだから要らないんじゃないのという御意見も出ているんですけど。

○萬羽部会長　でも、これは今までの議論の中で、個人的にはその場所が必要だよねというのが結構たびたび出てきたので、あったほうがいいような気がするんですけど、いかがでしょうか。あえて強調しましょうという今までの経緯があったような気がするんですが。さっきのあれですね。

○水津職務代理　そう。ここは場所の確保について結構話、議論したんですよ。例えば、仮にだけど、空き家の利用の情報の共有とか、そういうやり方をどうするかとかということも含めて、公民館の子どもたちだけで使用できる方法はないかとか、いろいろな確保の方法を、場所がないから、そこは一緒に運用していこうということをあえて入れての文章なので、やっぱり削りたくないなという気持ちがあります。

○萬羽部会長　というのですが、よろしいでしょうか。確かにくどいというあれもあるかもしれませんが、あえてくどく入れているというところなので。

○水津職務代理　だって場所がないんだもん。

○古源委員　それで「子どもの居場所を催す場所の確保」というのを「施設・場所の確保についても支援すること」と書き換えるという御提案じゃないかと思うんですけど。

○萬羽部会長　じゃ、催すじゃなくて。

○古源委員　　谷村さんの３行目の「また、施設・場所の確保についても支援すること」という文章。

○萬羽部会長　　そうか。すみません、居場所を催す場所というのが施設・場所の確保というふうになるということですね。居場所を催すというところを強調するか、施設・場所の確保。

これも含めて、居場所、施設を増やすというよりは。

○水津職務代理　どこをどうするという。

○鈴木隆行委員　子どもの居場所を催すという、その表現を消して、施設・場所という。

○萬羽部会長　　子どもの居場所というのがしつこいということなのか。すみません。子どもの居場所というところが大前提なので、ここがしつこいから、施設。

○水津職務代理　催すことにちゃんとこだわるものの、印象的に何かちょっと違う。催しばかりじゃないみたいなイメージもあるので、そこは子どもの居場所を取っても意味が通じるのであれば、別にそれはそれでもいいです。

○萬羽部会長　　それでは、ここは「施設・場所の確保についても支援すること」という、こちらにしてもいいでしょうか。

それではよろしいでしょうか。皆さんからの意見。よろしいでしょうか。

では、次第の（２）は以上とします。

○古源委員　　今後も子どもの居場所について検討していくというようなことは必要はないんですか。

○萬羽部会長　　それは報告書をどこかでチェックするというのは、でも、結局、どうなるか。まだそこまではちょっとしてないんだと思います。したほうがいいかどうかを考えるべきだと思います。

○子育て支援課長　この居場所部会からの報告書に付記するのであれば、それを入れたほうがいいと思います。これを踏まえて、子ども・子育て会議として決めるのであれば、本体会議で発言してもいいと思います。この報告書を報告するときの委員からの意見として発言するでもいいと思います。ただ、この部会の共通認識として盛り込みたいのであれば、ここでおっしゃるべきだと思います。

○古源委員　　「のびゆくこどもプラン　小金井」に継続的に検討していくという文言がありましたので、例えばこの部会を継続していくのか、おしまいなのかという判断というのは、子ども・子育て会議のほうでするという。

○子育て支援課長　最終的な決断は子ども・子育て会議がすると思います。別に子ども・子育て会議の中で部会に限定している表現をしているわけではないので、部会を持つかどうかの判断は子ども・子育て会議です。ただ、部会として継続を、毎月やるわけじゃなかったとし

ても、部会自体は存続させたほうがいいというお考えがあるのであれば、そのオーソライズが取れればそれを付記されると思います。

○萬羽部会長　提言に入れるというよりは、最初の報告書のところでまとめましたのでというあたりで。

○子育て支援課長　そうですね。終わりとかで入れるとか。

○萬羽部会長　同意が得られるのであれば、今後も継続的に審議したいとか、審議じゃないけど、この部会として活動していきたいみたいなことを入れるというところだと思うんですけど、そちらについていかがでしょうか。

○鈴木隆行委員　それって、まだここでの議論が足らないかどうかって、我々が思うかどうかですけども、基本的にはやっぱり本体会議で議論すべきことじゃないかなと思います。この案を見て、本体会議でみんなでどう思うかという。

○水津職務代理　だから、これを提言しますよね。これがどういうふうにこれからなっていくのかを見た中で、やっぱりその経過を見ることも必要だとか、話が会議に出たとしてというふうにしたほうが、ここで何か継続とかなんかということではいいのかなという。

○萬羽部会長　すみません。では、そのようにさせていただきたいと思うので、特に付記することではなくて、本体会議のほうでどうするか話します。

○子育て支援課長　そうしましたら、本日の議論を基に報告書を作成します。日本語のつながりの部分とか、てにをはみたいなところのみ修正したものを一旦皆さんに御確認しますが、最終的には事務局と部会長、職務代理に一任していただくことで御理解をいただきたいと思っております。

○萬羽部会長　本日の審議事項は以上となります。

以上をもちまして、終了いたします。ありがとうございました。

―― 了 ――